

イギリス海外研修報告（学校教育の情報化・ICTの活用）

I 研修の内容

1 調査団の研究課題

- (1) 子どもたちの情報活用能力の育成
- (2) 授業改善とICT活用
- (3) 校務の情報化

2 調査団の調査方法

- 学校関係** アスコット高等学校，サウスフィールドアカデミー，
グリーンフォード高等学校，ブライトン大学，バーンディーン高等学校，
パトチャム高等学校，ホブパークスクール
- 関係機関** 英国教育省，国立コンピュータ教育指導者協会，
コンピューティング・アット スクール，ブライトン市議会

II 研修のまとめ

1 イギリスにおける教室のICT環境について

イギリスの学校では，校種にかかわらずどの学校でも各教室にインタラクティブ・ボード（電子黒板），あるいはプロジェクターとスクリーン（ホワイトボード），それらに接続しているコンピュータが常設されており，学習課題や学習の進め方，提示資料などを映し出して授業を進めている。これは，1999年から始まる教科「ICT」のカリキュラムにおいて，整備してきたことによるものである。

各教室内の横や後ろに児童生徒用のコンピュータが設置してあり，教室中央に，机やテーブルを配置し，学習活動を進めている。

児童生徒が自宅から持ってきたラップトップ，あるいはタブレットを児童生徒専用のネットにつなげて，使用することができる学校が2校あった。その際のネット環境は，教職員用のネットとは物理的に別のものにしてある。

視察した各学校には，ICTを指導する担当の他に，システムを担当する職員が数名おり，授業のサポートや機器のメンテナンス，情報管理などを行っている。

2 ICTを活用した授業改善

視察した多くの学校で，主体的，協同的に学ぶことが重要視されている。ブライトン市議会の担当者によると，教師は授業の初めの段階で困ったときの対処法を生徒に伝え，途中課題でつまづいている生徒に対して答えをすぐに教えないようにしている。友達同士と協力して問題解決を図るように勧めたり，わからないことがあった場合でも「わからないから教えてください」ではなく，何のためにどのようにしたいのかを具体的に質問することを求めている。

英国教育省の担当者によると，イギリスは，2014年に新しいカリキュラム（National Curriculum）になり，授業改善に取り組んでいる。その中で，コンピューティショナルシンキングと言われるアルゴリズム的な考え方，問題解決的な思考や創造性がより重要視されるようになった。

ロンドン，ブライトンでは，ICT機器を授業改善の道具として活用しているだけでなく，コンピューティショナルシンキングを応用したコンピューティング以外の授業で授業改善に取り組んでいる。

（笛川小学校 藤波 貴）

フランス海外研修報告(生徒指導の充実)

I 研修の内容

教育課題研修指導者海外派遣プログラムの一員として、10月3日から10月14日までの12日間、フランスを訪問し、研修を行った。

1 調査団の研究課題

- (1) 訪問先教育機関・学校の特色
- (2) 生徒指導上の課題への対応
- (3) 教育相談等の対応

2 調査団の調査対象

学校関係 エコール・プリミエ・デュバンス (公立小学校) インターナショナル・ジョセフ・バーニア (公立中学校) リセ・オノーレ＝エスチエヌ＝ド＝オルブス (公立高校) インターナショナル・サン・シャルル (私立小中高一貫校) リセ・アンペール (公立高校) エコール・ノーマレ・シュペリウール (国立高等師範学校) セント・クロティルデ (私立中学校) リセ・ルイ＝ル＝グラン (公立高校) エコール・ボーズ＝ド＝セヌ (小学校・幼稚園)

関係機関 国民教育省 リヨン教育委員会 ヴィエンヌ市役所 イッシー市役所

II 研修の成果と考察

1 フランスの生徒指導の施策

フランスの学校制度は、初等教育は小学校(エコール5年制)、中等教育は前期が中学校(コレージュ4年制)、後期が高等学校(リセ3年制)、高等教育は大学(3年)、高等教育専門機関(グランゼコール3～5年)である。これらのうち、小学校から高等学校において、生徒指導について特徴的な施策が展開されていた。教員と同様に各高等学校と中学校には、CPE(生徒指導専門員)が配置され、生徒の出欠や遅刻対応、休み時間の監督、教育相談などが行われている。CPEの主な役割は、①学校に授業時間以外の生活に関する生徒指導部をつくること。②生徒を監督するために、教員と緊密に協力し、職員会議に参加すること。③教育活動に関する対話のための条件を設定し、個人・集団・学校の各レベルに応じた相談体制をつくることである。国の方針では、CPEだけではなく校長、教員、地方公共団体雇用のアシスタントを含めた学校全体の組織で生徒指導に対応することになっている。生徒指導の専門職員を置くことで、教職員の役割分担が明確になり、授業に専念できるというメリットもあるが、CPEを含めた教職員組織のチーム・ワークのありようが、その効果を左右するという課題もある。

2 フランスの生徒指導から学べること

- (1) フランスでは、国民教育省が全国の小学校・中学校・高等学校を監督する視学官を各地域に配置し、生徒指導に関する情報を集約している。
- (2) 国レベルで生徒指導の専門職の養成を推進し、専門性の高いCPEを中学校・高等学校に配置している。CPE養成は教員養成と同様で、修士の学位を取得し、長期のインターンシップの結果により採用される。
- (3) フランス国民教育省では、校長の監督を受けたCPEを中心として全教職員が一体となって行う生徒指導体制を推進している。

(甲州市立井尻小学校 中村直人)